テレビ新広島文化大学講演

農業・環境シリーズ第６話　2008年10月21日

「日本肉食史」

山本義雄

今でこそわれわれ日本人は、誰はばかることなくウシ、ブタ、鶏、などの肉を食べ、牛乳を飲んでいますが、明治の半ばまでは、これを飲み食いすることを忌避するものが多かったのです。このように、牛肉を食べ、牛乳を飲むことを忌み嫌う風習は、奈良時代から徳川時代に至るまで、実に1000年以上の長きにわたり続きました。徳川時代には、牛肉を食べたり、牛乳を飲んだりする者を社会から疎外さえしたため、いつとはなしに日本人は元来肉食をしないし、牛乳を飲まない国民であるという観念が生まれました。ところが、８代将軍吉宗は大奥で牛肉を煮て食べていたし、11代将軍の家斉は近江牛の味噌漬が大好物であった。このように、一般にはあまり知られていなかった日本人の肉食について、古代から近世までの流れをまとめてみました。

御厨牛→